

施工マニュアル 【直張り工法編】 **重要**

1) 保管・開梱

- 無垢フローリングは輸送中・保管中にも含水率が変化しますので事前に現場の湿度に馴染ませる必要があります。従って、無垢フローリングが現場に到着したら、結束は解かずに関開梱し段ボールから取り出して周囲の環境になじませて下さい。約 1 週間が理想ですが少なくとも 3~4 日間をお願いします。

2) 下地材

下地のモルタル・コンクリートは含水率が **10%以下**になるまで充分乾燥し、確認後に施工して下さい。

- 概ね約 1ヶ月~2ヶ月以上の養生期間が必要です(気候条件・環境により期間は異なります)。下地の乾燥が不十分な場合、直張り後にフローリングが水分を吸収し、膨張・突き上げの原因となる場合がございます。コンクリートが充分に乾燥した状態での施工をお願いします。
- 季節・環境・施工時点の気候条件によりコンクリート・モルタルの含水率は変化しますのでご注意ください。
- 箒で施工面上のゴミを除去し、最後は掃除機で小さな埃を除去してください。モルタルが平滑でない場合は、モルタルに付着している異物を除去し、下地が悪い時はワイヤブラシ付きポリッシャーで表面残留のセメントを取り除いてください。
- 施工前に、不陸の調整を必ず行って頂けますようお願いいたします。凸凹がある状態でフローリングを張り込みますと、施工後の割れ・床鳴りの原因となる場合がございます。※不陸は1mにつき3mm以内にしてください。

3) 接着剤

- 接着剤 : 1液型ウレタン系接着剤 (化学反応によって固化するタイプで、硬化後の収縮が無く、接着剤が要因となる床鳴りを防止します。) 弊社推奨品 ⇒ コニシ KU928R / コニシ KU928RS / コニシ E350R
水性エマルジョン系接着剤・木工用白ボンドは絶対にご使用にならないで下さい。(接着剤に含まれる水分が蒸発して硬化するタイプで、水分が無垢フローリングが吸収する為、“暴れ・床鳴り”の原因となります。)
- 下地のコンクリート・モルタルに櫛目ゴテを使い、万遍なく接着剤を塗布してから張り込んでください、その際にサネの中に接着剤が入らぬように気をつけて施工してください。又浮き上がり・床鳴り防止の為に、接着剤は多めに使用してください。
- 裏に直張り用のカルブを張る事でフローリングに若干の反りが出る場合があります。 フローリングをスラブに接着後に適度な重しを乗せ、圧着させる様をお願いいたします。特に貼り始め、張り納め部分は特にウエイトには注意してください。
- 施工時に、靴の裏に付く接着剤、施工者様の手についた接着剤には充分ご注意ください。付着した接着剤を剥がし、補修をするのには高度な技術が必要になります。 又接着剤の種類によっては補修が不可能な場合もありますのでお気を付け下さい。

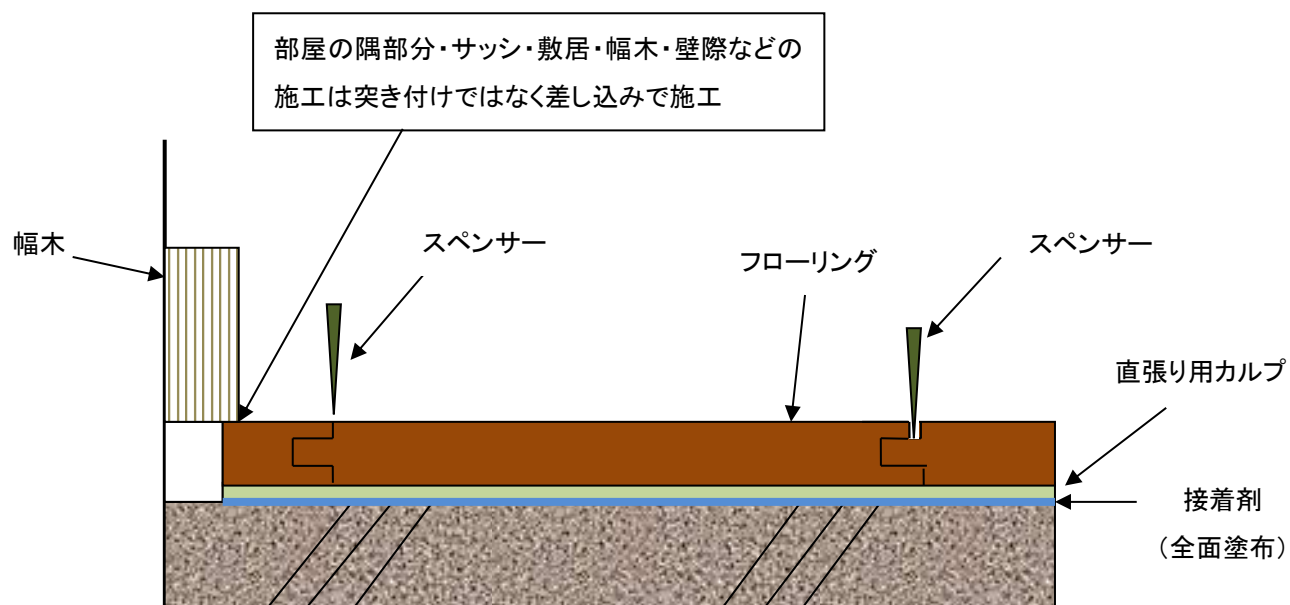
4) 壁とフローリングのスペース

- 施工環境にもよりますが、特に湿度の高い地域・季節での施工の際には、フローリングのサネは強く叩きこまず、市販のスペンサーを使い、名刺1~2枚程度の隙間(0.2~0.3mm)を設けて施工して下さい。
- 壁・柱には密着させずに、必ず 5~10mm ほどのスペースを設け、そのスペースは幅木で隠して下さい。このスペースでフローリングの膨らみの逃げを作ります。

5) 養生

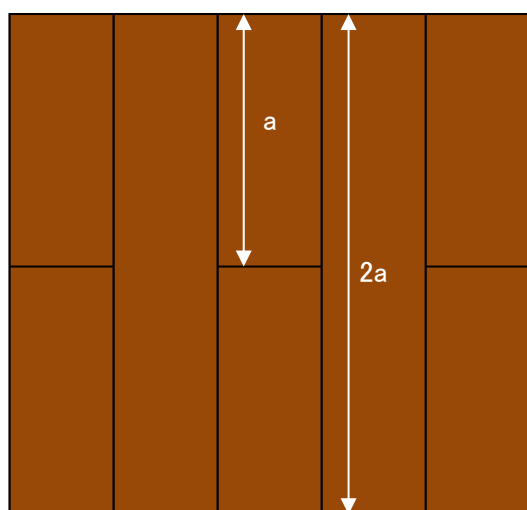
- 施工後の養生シートは、通気性の良いものをご使用下さい。工事中のコンクリート・モルタルは完全には乾燥していません。通気性に劣る養生シートをお使いになりますと、下地からの湿気が逃げる場所を失います。特に夏場は、シートの中がサウナ状態になり、フローリングにスペースを持たせていても「膨張・突き上げ」の可能性が高くなります。充分ご注意ください。

施工断面イメージ図

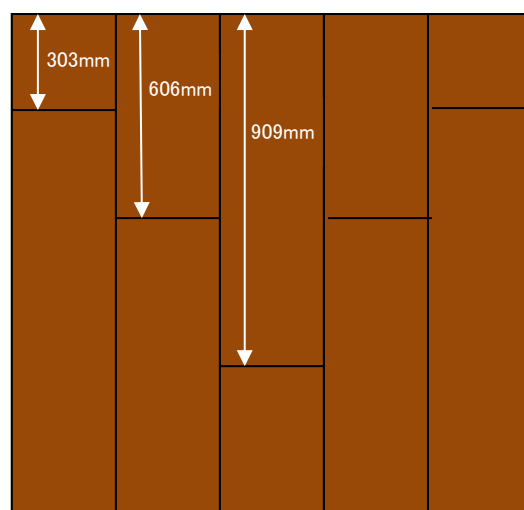


定尺施工イメージ図

千鳥スタイル



一尺飛びスタイル



※乱尺商品は短辺の目地が隣の列となるべく近寄らないよう配慮し仮並べ後、施工を行ってください。